

地域連携センター 田中栄一郎さん（平成16年度入学）



は
— 飛翔編集員時代の思い出

からこれは「何かが違うな」と感じて……それは視点が内向きだったんです。飛翔は学生だけ

生

みます。それで、次の企画会

やってるぜ」っていう企画に絞ることにしました。その時に始めたのが、サークル紹

と、面白い学生を紹介する企画と、自分たちが感じている

ことを知ってもらうためのブックレビューでした。二年生の後期には西条のお店紹介をやったんだけど、完全に外部の人に取材したのは初めてだったんじゃないかと思えます。せっかくパソコンに入っているからということではイラストレーターというソフトの使い方も勉強してレイアウトに生かしたりもしました。変

えるのなら責任はもちろんあるのだけれども、そうやって変えていくことが面白いと思うようになったのはこの飛翔がきっかけです。絶対。

— お仕事について

地域連携センターの役割は大学を地域に売り込むことです。地域と大学に何か問題が

うまく一致すれば解決の道筋がたつはずなんですよ。そういう別のことをやっている二つのものがうまくマッチングする場を見つけるのが今の一番の仕事かな。例えば、人手不足、労働力不足といった問題を
生のマンパワー
て、授業で田んぼに連れて行って「これ刈ったら一単

位」とかでもいいわけじゃないですか。悪い言い方をしたら。ベンチャー企業とかはまっさらなフィールドから何やってもいいわけじゃないですか。そうじゃなくて今あるものをど
いうことを考えつつやっていますね。

— 今の仕事に就くまでの経緯は？

今のうちに言ってお
が、私の話は参考にしない方がいいですよ
とまちづくりについて勉強したかったので、都市計画系コンサルタントのある都市部の大学院に行けばいいという単純な発想で神
に進学しました。でも、その先生の先生がどちらかという理

OB紹介

論系で、まちづくりに実務的に関わっていく先生、
かったんですね。それで休学させてもらうことにしました。大学時代はずっと自転車で乗って広島から実
に行ったり、四国をまわったり、京都から北陸とか旅したりしていました。休学してからまた四国一周お遍路したり、九州一周したりして、その時いろんな人の話が聞けて面白かったです。アウトローな生き方をしている人に出会えたりして。そんな時に、酒祭のボランティアを毎年やっていたことで大学時代関わりがあった地域連携センターの塚本先生から「今、人手が足りないから働かないか？」と誘いを受けて、ここに戻ってきて就職しました。

だから普
参考にならない（笑）。

―総科で学ばれて良かったことは？

分野の広

マネジメント

人の話が分からないと駄目なのは本当に武器だと思えます。

―学生にメッセージを

「動けば変わる」という言

葉を講演で聴いたのですが、

動けば変わ

うですが一番変わるのは自分

うちに、「こっちに

こっちにいける」という風になんどん変わっていきける。「動けば何かしら見えてくる」と

いうことだと思えます。

（取材・記事 20生 山崎 弦太）

（取 20生 吉田 聡）



中国新聞社編集部経済部記者 奥田美奈子さん（平成9年度入学）



―お仕事について

私が取材しているエリアは中国地方五県全体です。主な対象はその地

動の様子や雇用などについて取材をし を 行の取材を担当してしました。最近では【取材日二〇〇八年十一月三〇日】運輸や、行政の経済を担当している経済産業局などの取材

ています。

―プレッシャーは感じますか？

感じます。記事に面白いことだけでなく、厳しいことや事故 こと ければならない時もあります。それに記事を見ていろんなことを感じたり思ったりする人がいる訳ですから、どんなに短い記事でもプレッシャーは感じますね。

―一週間はどんな感じですか？

新聞は毎日発行されるので、ものにもよりますがニュースはその日取材したらその日のうちに原稿を書いて次の日には記事になって新聞に出ます。だから夕方から取材をして夕方に原稿を書いて夜の締切まで勝負をすること

に取材をして回って1、2時間かけて原稿を書いて大きめの記事をつくることもありま

―職場の雰囲気は堅いですか？

全然堅くありません。みんながお互いに意見を言わなくなったらおしまいなので職場はいつも賑やかですよ。

―そんな話し合いの中から記事が生まれたりするのでありますか？

うん。「あの電気屋のパソコンコーナーに人ばかりできて」とか、そういうおしゃべりを職場でもするんですよ。それで「なんでそこに人ばかりができるんだろう」とて疑問に思うじゃないですか。じゃあちよつと取材に行つて

みようかということになって取材に行くことはよくあります。

―日常生活で仕事のために敏感になっていることは？

とにかく新聞は読みま 雑誌も読みま も が読みたいものだけ読んでたら視野が狭くなるの 普段読んだりしないもの、例えば男性向けのグッズの雑誌や小中 から高齢の人が好んで読むよ うなものにも目を通していま す。あとは趣味で散歩に行く時に新しい店とか看板は出てないかということに注意したりしていますね。

―学生時代サークルは？

吹奏楽団 吹 っていました。練習が週三で夏休みはサークルばかりして

OG紹介

たのであんまり勉強はしてなかったですね。活動は広大だ

市内の大学の吹奏楽サークル

こともありました

学校や福祉施設でも演奏会を

し

う対外的な

役割を担当していました。結

構その仕事も楽しかったです

ね。その時サークルの団員が

百人位いたと思

その百人を切り盛りするとい

うのものなかなか

たし、それは本当に経験でき

て良かったと思いますね。

―アルバイトは？

RCCのカメラアシスタント

トをやりました。仕事は荷物

持ちとかライトやマイクの準

備などあらゆる

ろんなところに行けて面白

かったです。

材に行つて間近で知事を見た

り、災害現場の第一線を目の

当たりにしたり、そういうの

を自分の目で見られたのは

―総科で良かったと思うこと

は？

総科はある程度

れずにいる

すよね。だから当時は法学部

の授業とか工学部、理学部の

授業にも行っていました。一

つのこと

るとそうでもないけれど、取

材の中でいろんな人に会う時

に、その人の発言のなかにど

れだけポイントがあるかとい

うのは、ある程度いろんなこ

とに知識がないと気づけない

ういう仕事をする上で強みに

なっているかもしれないです

ね。

―総科の後輩にメッセージを

総科はいろんな目的を持つ

た人が集まっているし用意さ

れている授業も多種多様な

で視野を広げられる学部だと

思います。それを生かしてい

ろんなことに首を突っ込んで

勉強してみたらいいんじゃない

いでしようか。でも世間知ら

ずにならないように、いろん

な所に足を運んでみたり、知

りたい、行ってみたい、やっ

てみたいという好奇心を満た

すようなことにチャレンジし

たりしてほしいと思います

(取材記事 20生 山崎 弦太)

(取材 19生 桑田 雅美)

